２０２５年度　事　業　報　告　書

我が国の貴重な無形文化財である人形浄瑠璃文楽の保存及び普及を図るため、国、大阪府並びに国立文楽劇場及び国立劇場と密接な連携を図りながら、人形浄瑠璃文楽の伝承者の養成、研修発表、資料の収集・整理並びに管理運営業務を実施した。

１．公演事業

（１）本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

公演日数は、大阪・東京を併せて、１３６日となった。

（　）内は、前年度実績

公　演　地	期　　間	日数・公演数	観　客　数
大　阪 （国立文楽劇場）	4/5～4/30	24 日　72 回	２１，７０８人
	7/19～8/12	23 日　69 回	１７，２３３人
	9/6～10/14	36 日　108 回	２１，１４１人
	(2026) １/3～１/27	23 日　69 回	２１，５１０人
計		106 日　318 回 (90 日 248 回)	８１，８６２人 (68，029 人)
東　京 (ｼｱﾀｰ 1010 他)	5/9～5/27	18 日　54 回	１４，１４３人
	(2026) 2/11～2/23	12 日　36 回	１３，７０９人
計		30 日 90 回 (46 日 120 回)	２７，８５２人 (36，357 人)
合　計		136 日 408 回 (136 日 368 回)	１０９，７１４人 (104，386)

（２）地方公演（文楽協会主催）

地方公演は、本公演がない秋季及び春季に全国各地を巡演し、各地の文楽愛好家の期待に応えるとともに、新規顧客の開拓に取り組む事業である。２０２５年度は、前年度より７日増の２５日の公演となった。

（　）内は、前年度実績

公　演　地	期　　間	日数・公演数	観　客　数
広島、岡山、静岡、宮城、青森、北海道他	11/6～11/24	13 日　26 回 （11 日　21 回）	１４，３３１人 （8，985 人）
福岡、静岡、群馬、愛媛、山口、鹿児島、姫路他	(2026) 3/4～3/22	12 日　24 回 （7 日　14 回）	１０，１４６人 （4，247 人）
合　計		25 日　50 回 （18 日 35 回）	２４，４７７人 （13，232 人）

（３）特別公演事業

特別公演事業については、前年実施のなかった岡崎文楽・博多座文楽を実施。

また、昨年に引き続き「文楽キャラバン公演」等、新たな切り口での文楽公演にチャレンジし、文楽初心者やインバウンドの方々に文楽に接してもらう機会を創出した。

・主な特別公演事業

公　演　名	期　　間	日数・公演数	観　客　数
文楽ｷｬﾗﾊﾞﾝ(OMO7 大阪 by 星野ﾘｿﾞｰﾄ)	7/10	1 日　2 回	
〃　　(NHK 大阪放送局ｱﾄﾘｳﾑ)	11/19	1 日　2 回	計４００人
ええんちゃう！文楽(なんばｶﾞﾚﾘｱｺｰﾄ)	7/11	1 日　1 回	
〃　　(天保山ﾏｰｹｯﾄﾌﾟﾚｲｽ)	11/22	1 日　1 回	計５６０人
中之島文楽(大阪市中央公会堂)	10/18	1 日　1 回	２，８００人
岡崎文楽（岡崎市せきれいﾎｰﾙ)	3/13	1 日　1 回	５００人
博多座文楽	11/8～9	2 日　3 回	２，４００人
内子 The 文楽 2025	11/29～30	2 日　3 回	２２０人
泉南文楽（泉南市立文化ホール)	26.2/28	1 日　1 回	２００人
はじめての文楽（国立文楽劇場)	26.3/14	1 日　1 回	７５０人
茨木文楽（茨木市民総合センター)	26.3/28	1 日　1 回	５５０人
合　計		13 日 17 回	８，３８０人

２．伝承者養成事業

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導等に重点をおいた取り組みを推進し、技芸員８２名のうち指導する側３０名に講師等指導者謝金を、指導を受ける側の５２名に研修（修業）手当を支給した。

（１）契約技芸員（令和８年３月３１日現在）

契約技芸員数	太　夫	三味線	人　形
８２名	２１名	２２名	３９名

（２）若手技芸員の勉強会等の実施

若手技芸員の実力向上を図るため、師匠・弟子間の指導、稽古を重視して推進するとともに、基礎的な演技力の伸長を目途に、国立文楽劇場及び国立劇場と連携して錬成・発表の場を設けた。

・若手技芸員が自発的に取り組む、若手技芸員公演「若手会」(6 月)・「蝠聚(ふくじゅ)会」(8 月)・を実施した。

・国立文楽劇場及び国立劇場の主催で若手技芸員を登用して公演される「文楽鑑賞教室（6 月・大阪）(12 月・東京)」が開催され、日頃の修行の成果を発表し、有為な文楽技芸伝承者の養成に努めた。

・文楽研究生３名については、文楽技芸の研修について支援を実施した。

・若手技芸員の実地研修として府民、市民や学生を対象とした初心者向けの「文楽ミニ公演」を計３会場で実施するなど、若手技芸員の発表、自己研鑽の場を拡げた。

なお、令和７年度の主な若手技芸員勉強会等の実施結果は、次のとおりである。

① 若手会

劇場名	実施時期	実施回数
大阪（国立文楽小劇場）	６月	２日（２回）

② 蝠聚会

劇場名	実施時期	実施回数
大阪（国立文楽小劇場）	８月	１日（１回）

③ 文楽鑑賞教室

劇場名	実施時期	実施結果
大阪（国立文楽劇場）	６月	１４日（２８回）
東京（東京芸術劇場）	１２月	１４日（２８回）
計		２８日（５６回）

④ 文楽ミニ公演

会場名	実施時期	実施回数
国立文楽劇場小ホール	７月	１日（２回）
南海波切ホール（岸和田市）	１１月	１日（１回）
高槻城公園芸術文化劇場（高槻）	２月	１日（１回）

※３日の公演における応募状況は、募集1,４５０名に対し、応募5,８７５名で、競争率４.１倍となった。

（３）文楽協会賞表彰　４名

１年間真摯に舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し、例年通り文楽協会賞を贈った。

（太夫）豊竹亘太夫、（三味線）鶴澤燕二郎、（人形）吉田玉彦、吉田玉路

３.普及啓発事業

（１）文楽を中心とした古典芸能振興事業（大阪市）

「文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会」（構成：大阪市、文楽協会）が実施する各種事業に協力した。

・「中之島文楽」、「文楽キャラバン」等の公演事業
・フリーペーパー「人形浄瑠璃 文楽の世界」の制作

（２）ワンコインで文楽（１１月・初春公演期間中）

サントリーホールディングス様のご支援により、若年層（１５歳～３５歳）をターゲットとしたワンコイン文楽を実施し、５００名を動員することができた（協力：公益財団法人関西・大阪２１世紀協会）。

（３）メディアへの露出

・桐竹勘十郎　ぴあフィルムフェスティバル参加作品「道行き」が一般上映（

・竹本織太夫　NHK ドラマ「金田一耕助シリーズ　悪魔の降誕祭」に出演

４．運営

（１）評議員会の開催　６月２５日

決議事項：2024 年度事業報告について

2024 年度計算書類について

評議員の選任について

理事の選任について

（２）理事会

・第１回理事会　５月２６日

決議事項：2024 年度事業報告について

2024 年度計算書類について

評議員会の招集について

報告事項：理事長の職務執行状況報告について

賛助会員の入会依頼活動状況について

・第２回理事会　３月１７日

決議事項：2026 年度事業計画について

2026 年度収支予算について

文楽基金の一部取り崩しについて

2026 年度国庫補助事業実施決議について

運営資金の短期借入れ並びに担保の提供について

報告事項：岸本忠三文楽支援基金取崩し見込み額について

理事長の職務執行状況報告について

（３）賛助会員制度の実施状況

文楽協会の安定した財政運営の一助となるよう、当会の事業趣旨に賛同いただく個人、法人から幅広く支援を募る「公益財団法人文楽協会賛助会員制度」は、2026 年 3

月末現在、個人会員 307 人（440 万円）、法人会員 28 社（2,060 万円）。また、それ以外に寄付（個人：27 名・1 億 234 万円、法人：3 社・64 万円）を頂戴している。

５．法人の運営体制の充実を図るための取組

（１）理事・監事の選任のあり方

＜理事＞

重要無形文化財「人形浄瑠璃文楽」の保存及び普及活動に賛同いただき、賛助会費や寄付金、人的サポート、メディア露出を含めた情報発信サポート等を頂戴している、おもに関西に経済基盤のある法人から、しかるべき能力・経験を有するものとして推薦された法人幹部の方に理事として就任いただいている。

＜監事＞

当法人の活動に賛同いただき、長年にわたって当法人の監査を行っていただいている税理士に加え、大阪発祥の伝統芸能であることから、大阪府教育庁文化財保護課長に、監事として就任いただいている。

（２）理事・監事への情報提供

事業報告・決算書だけでなく、主な活動をトピックスとして紹介したり、今後予定される新しい取組を共有したりするなどの情報提供を行っている。また当法人の活動や運営をより深く理解していただくために、日本芸術文化振興会・一般社団法人文楽座との役割分担や、意見交換会の実施内容、技芸員の方々へのサポート内容について説明を行っている。

（３）評議員の選任・解任

定款第１１条に記載する「評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第１７９条から第１９５条の規定に従い、評議員会において行う」に基づき、適切な自律的ガバナンスのなかで行っている。

【　附属明細書　】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。